

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】 「高い志」を持ち、既存の枠を超える、新たな価値を生み出す真のリーダーを輩出する学校。 【生徒に育みたい力】 ○ 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。 ○ ハイレベルな授業を通じて、進路実現を可能にする高い学力とのびやかな知性を育む。 ○ 生徒の自主性を重んじ、互いの協力や切磋琢磨を通じてたくましい人間力を育成する。
--

2 中期的目標

○グローバルリーダーズハイスクールの特色づくりのため、本校の3つの教育目標を3年間の生徒育成計画「北辰プロジェクト」に基づいて取組むとともに学校の組織としての教育力の向上のための取組みを実践する。 1 「高い志」の涵養 (1)「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させる。 ア 文理融合の課題研究や探究活動等を通じて主体的に学ぶ意欲と姿勢を育み、大学での学びにつなげる。 イ 卒業生人材ネットワークを拡大し、大学等と連携する等、卒業生による支援体制を強化する。 ① 大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」 ② 京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」 ② 関東方面への大学等見学会「東京スタディツアー」 ④ 第1学年対象の「スプリングセミナー」 ⑤ 第2学年対象の「オータムセミナー」 ※スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数合計150名以上を維持する。 (令和4年度(令和5年度入試):166名、令和5年度(令和6年度入試):135名、令和6年度(令和7年度入試):161名) ※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合90%以上を維持する。(令和4年度:92%、令和5年度:96%、令和6年度:94%) 2 「枠を超える知性」を備えた真のリーダーの育成 (1)部活動・学校行事等を通じてリーダーとしての資質を高める。 ア リーダー育成研修を継続させる。 イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。 (2)グローバルな視点で考えることができる人物の育成のための取組みを継続発展させる。 ア 宿泊野外行事及びその事前・事後学習、またその他さまざまな国際交流行事について、生徒自らがSDGsの視点も踏まえ主体的に企画・運営することを通じて、多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。 ※宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上を維持する。 (令和4年度:国内実施・99%、令和5年度:99%、令和6年度:98%) イ 英語教育の内容をより一層充実させる。 3 「自主自律の精神」の育成 (1)生徒会活動、部活動、学校行事を中心に、互いに違いを認め共に生きる力や協調性、豊かな感性を育む。 (2)地域と連携した活動を通じて、地域とつながるこころを育み地域に貢献する意識の向上を図る。 ※地域と連携した活動等への参加する機会を20回以上となるようにする。R3～R5までの一人当たりの回数から指標を変更した。 (令和4年度:生徒一人当たり年間0.86回、令和5年度:生徒一人当たり年間0.9回、令和6年度 35回) (3)自主的な読書活動の支援を通して自学自習の精神を育成する。 ※1,2年生の一年間の読書量一人当たり平均10冊以上を維持する。 (令和4年度:一人当たり平均9.2冊、令和5年度:一人当たり平均10.8冊、令和6年度:一人当たり平均13.6冊) 4 学校の組織としての教育力の向上 (1)地域との連携を図りながら防災に対する教職員の危機管理意識の向上を図る。 (2)教員の授業力の向上を図る。 具体的には、新学習指導要領及び観点別評価の実施、ICTを活用した取組みの推進、公開・研究授業や相互授業見学の充実、大学等との連携の深化を図る。 ※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均90%以上を維持する。 (令和4年度:平均91%、令和5年度:平均91%、令和6年度:平均88%、) (3)教育環境の整備と働き方改革の推進を図る。 教員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、時間外在校等時間の縮減に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 高 い 志 の 涵 養	(1) 「高い志」を涵養するための取組み ア 課題研究・探究型授業の充実 イ 卒業生との連携の強化による取組みの充実	(1) ア・探究活動等を通じて得られる課題発見・解決の経験を原動力とし、あらゆることに好奇心を持って、奥行きのある学びを楽しむ力を身につける。 ・大学の先生等の協力を得ることによって、2 年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。 ・課題研究の発表の場や探究型の授業を中学・高校の先生や生徒に公開する。 イ・本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実, 深化させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」「オータムセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施し、志を高く持ち、大きな心で世界を、未来を見つめることの大切さを実感させる。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学等見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考え、社会貢献の意味を考える場とする。	(1) ア・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数 50 回以上 [94 回] 維持 ・中学・高校から参加の先生や生徒の人数 30 人以上 [教員 68 人] 維持 イ・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数 10 以上 [卒業生の講演会 2 回 学問発見講座は 15 講座、卒業生講座は 10 講座] 維持 ・卒業生の研究室訪問 10 か所以上 [11 か所] 維持 ・関東方面への大学等見学会の参加生徒 15 名以上 [12 名]、支援する卒業生 15 名以上 [20 名] 維持 ・各取組みに対する生徒の満足度 90%以上 [学問発見講座 93%、卒業生講座 96%、卒業生の研究室訪問及び関東方面への大学等見学会 99%] 維持	
2 卒 真 を の 越 り え ー る ダ 知 ー 性 の を 育 備 成 え た	(1) リーダー育成プログラムの充実 ア リーダー育成プログラムⅠ・Ⅱの充実 イ リーダー育成プログラムⅢの充実 (2) グローバルな視点で考えることができる人物の育成のための取組み ア 生徒主体の宿泊野外行事及び種々の国際交流行事の取組み イ 英語教育の内容の充実	(1) ア 各部・同好会等の部長等に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演・実習等を実施する。 イ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的の実施し、健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、自己と向き合い、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。 (2) ア・第 2 学年の宿泊野外行事については、SDGs の視点を取り入れ、地域等との交流や地域の歴史・文化の理解を深めるための事前・事後学習等も含めて、生徒が主体的に取り組む。 ・長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第 1 学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流 (B&S) について、実際のコミュニケーション力を高め、生徒が主体となって異文化理解や他国理解を深める。 イ・英語の授業を通じて、英語でのプレゼンテーションやディベートのスキルを向上させ、受信力、発信力を高めるとともに論理的、批判的思考力を養う。 ・「英語イマージョンプログラム」あるいは同様のプログラムを実施し、道具として英語を運用する能力を向上させる。	(1) ア・リーダー育成プログラムⅠ・Ⅱの実施回数 10 回以上 [12 回] 維持 ・参加生徒のアンケートにおける満足度 90%以上 維持 [98%] イ・リーダー育成プログラムⅢの実施回数 5 回以上 [5 回] ・参加クラブ数 30 以上 [38] 維持 (2) ア・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度 90%以上 [98%] 維持 ・交流する大阪大学等留学生数 30 名 [44 名] 維持 ・交流後のアンケートの満足度 80%以上 [99%] 維持 イ・授業後における生徒の満足度 80%以上 [90%] 維持 ・英語イマージョンプログラム等実施後の生徒アンケートにおけるプログラムのレベルの満足度 90%以上 [97%] 維持	
3 自 精 主 神 自 の 律 育 の 成	(1) 生徒会活動、学校行事における取組みの充実 (2) 地域とつながるこころの育成 (3) 自学自習の精神の育成	(1) 生徒会執行部を中心とする生徒議会、各種委員会の活動を指導・支援し、生徒自治による体育祭、文化祭等の学校行事の取組みを充実させる。 (2) 生徒に地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、想像力を働かせ、新しい価値を生み出すことを可能とする自主自律の精神の育成をめざす。 (3) さまざまな分野の書物を定期的に紹介する等、読書指導を推進し、自主的な読書活動につなげるにより探究心に満ちた自学自習の精神を育成する。また、多様な価値観を身に着けた包容力のある人物となることを期待する。	(1) 生徒対象の学校教育自己診断における体育祭及び文化祭についての設問に対する肯定的回答 90%以上 [体育祭 98%、文化祭 93%] 維持 (2) 地域活動へ参加する機会 30 以上 [35] 維持 (3) 生徒一人当たりの平均読書量年間 10 冊以上 [13.6 冊] 維持	
4 学 校 の 組 織 と し て の 教	(1) 危機管理意識の向上	(1) ア 依然影響のある新型コロナウイルス等感染拡大防止のため完全実施が阻まれていた、伝統的に取り組んできた諸行事をすべて行えるよう高い危機意識を共有する。 イ いじめ・虐待等の生徒事案の未然防止, 生じた場合の情報共有、早期対応に努め、教育相談会の実施をはじめ教育相談体制のより一層充実させる。 ウ 「教職員の不祥事の防止（体罰・セクハラ等の防止を含む）」、「個人情報 の適正な管理」及び人権に関する教職員研修を行う。	(1) ア・クラブ代表者会議等を通じて必要に応じて適宜注意喚起し、すべてを生徒自治の下で実施する。 イ・安全・安心アンケート年 2 回、いじめアンケートを年間 3 回実施 [各 2, 3 回] ・教育相談に関する事例検討会議 3 回以上 [5 回] 維持 ウ 「教職員の不祥事」、「個人情報 の適正な管理」及び人権に関する教職員研修 3 回以上 [3 回] 維持	

府立茨木高等学校

育 力 の 向 上	(2) 授業力向上のためのシ ステムの充実	(2) ア 本校における生徒1人1台端末の活用促進に向 けたアクションプランの「ステップ2」の取組み を推進する。 イ 生徒1人1台端末等を活用したICTを効果的な授 業実践及び主体的・対話的で深い学びを推進する ための授業研究や大学等との交流をさらに進め る。加えて各教科において観点別評価を実施する。 ウ バディシステムを継続実施及びグループウェアソ フトを利用したオンライン互見授業の実施によ り、教員の授業力を向上させる。 エ 管理職による全教員の授業観察後に、面談の中 でコメント、振り返りを行い、生徒の興味・関心が高 まる授業を求める姿勢を共有し、授業アンケート とともに授業力を把握する材料とする。	(2) ア・[生徒・学校教育自己診断] 「学校はICT環境を効果的 に活用している」75%以上 [83%] 維持 ・ICT の効果的な活用に関す る教員研修1回以上（[2 回] 維持 イ・ICT の効果的な授業実践及 び深い学びを推進するた めの大学との交流及び研究授 業年10回以上[48回] 維持 ウ・互見授業教員一人当たり平 均年2回以上[2.6回] 維持 エ・生徒からの授業信頼度85% 以上[88%] 維持	
	(3) 働き方改革の推進	(3) ア 学校部活動方針及び全校一斉定時退庁日の遵守に 学校一体となって取り組む。 イ ICTの活用等による業務の効率化を図る。	(3) ア ・全校一斉退庁日の実施九 割をめざす[八割] イ ・職員会議の資料電子デー タでの共有率80%以上[100%] 維持	